



1

## 建築家・大高正人と鎌倉別館 Architect OTAKA Masato and Kamakura Annex

改修に伴う長期休館前の最後の展覧会となる本展では、鎌倉別館を設計した建築家・大高正人の美術関連の仕事に焦点を当てながら、別館で紹介してきたコレクションや資料で33年間にわたる鎌倉別館の歴史を振り返ります。

### 2017年5月27日(土)~9月3日(日)

### 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-8-1  
TEL. 0467-22-5000

休館日：月曜日（7月17日は開館）

開館時間：午前9時30分-午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般 600（500）円、20歳未満・学生 450（350）円、65歳以上 300円、高校生 100円

※（ ）内は20名以上の団体料金です。

※ 中学生以下と障害者手帳等をお持ちの方（および介助者原則1名）は無料です。  
その他の割引につきましてはお問い合わせください。

※ ファミリー・コミュニケーションの日：毎月第1日曜日（今回は6月4日、7月2日、8月7日、9月4日）は、18歳未満のお子様連れのご家族は、割引料金（65歳以上の方を除く）でご観覧いただけます。

主催：神奈川県立近代美術館

お問合せ先 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-8-1  
TEL: 0467-22-5000 / FAX: 0467-23-2464 / メール: info.kinbi.474@pref.kanagawa.jp  
美術館ウェブサイト <http://www.moma.pref.kanagawa.jp>  
公式ツイッターアカウント @KanagawaMoMA  
広報担当：立花、三本松 展覧会担当：三本松



# 展覧会の見どころ

1984年、建築家・大高正人(おおたか.まさと/1923-2010)の設計により開館した鎌倉別館。鶴岡八幡宮の境内に建つ鎌倉館(坂倉準三設計、1951年開館/2016年閉館)の軽快な印象と対照的に、重厚なボリューム感を特徴とした別館では、主にコレクションによる企画展を開催し、当館が普及に力を入れてきた現代彫刻を前庭で紹介してきました。

設計者の大高正人は、ル・コルビュジェに学んだ日本近代建築の巨匠、前川國男の下で神奈川県立図書館・音楽堂(1954年)や東京文化会館(1961年)を担当し、独立後は横浜みなとみらい地区などの総合的な都市計画を手がける一方で、風土に根ざした地方都市の町づくりを推進した建築家です。1960年の世界デザイン会議に向けて榎文彦、黒川紀章らと結成したメタポリズム・グループでの建築思想活動も知られています。

芸術への造詣も深く、彫刻家の向井良吉や柳原義達、また当館の副館長/館長であった美術批評家の土方定一とともに宇部(山口県)や須磨離宮(兵庫県)の野外彫刻展に1960年代の発足当時から運営・選考委員として関わり、会場構成を長年手がけています。鎌倉別館の建築と彫刻庭園は、日本の戦後美術と当館の活動、そして大高の仕事が結実した成果でもありました。

改修に伴う長期休館を前にオリジナルの建築意匠でご覧いただける最後の企画展として、大高正人の美術関連の仕事に焦点を当てながら、鎌倉別館で開催してきた展覧会にまつわるコレクションや関連資料を中心に、鎌倉別館の33年間の活動を振り返ります。



2



3



5



4



6



7



8

## 大高正人略歴

1923	福島県田村郡三春町に生まれる。
1947	東京大学第二工学部建築学科卒業後、同大学院研究生。
1949	前川國男建築設計事務所入所。神奈川県立図書館・音楽堂、東京文化会館などを担当。
1959	翌年の世界デザイン会議に向けて設立されたメタポリズム・グループに参加。
1960	榎文彦と協働で新宿副都心計画を発表、群造形を提案。
1962	大高建築設計事務所を設立。P(Prefabrication), A(Art&Architecture), U(Urbanism)の統合を目標とし、その頭文字を取ったPAUを自らの建築方法論として掲げる。
1965	農村都市構想を实践した一連の農協建築の代表作、花泉農協会館を手がける。
1967	構造家・木村敏彦と協働で千葉県文化会館を手がける。
1968-86	木造密集市街地の改善計画を發展させた坂出市人工土地を手がける。
1969-78	戦後広島島の復興に大きな役割を果たした広島市基町団地を手がける。
1979-2002	みなとみらい21事業の、全体計画の基本的方向付け、および具体的なプランの策定を担う。
1980-2003	故郷・三春の町長の都市計画顧問を務め、三春ダム周辺修景基本計画、三春交流館/まほらホール等を手がける。
1984	神奈川県立近代美術館 鎌倉別館、福島県立美術館竣工。
1988	紫綬褒章受章。
2010	87歳で逝去。

## 関連企画

### ■担当学芸員によるギャラリー・トーク

日時：6月25日(日)、7月9日(日)、8月6日(日) 各日午後2時-2時30分  
申込不要、無料(本展の当日観覧券が必要です)

### ■連続講演会「神奈川の近代建築」(県立社会教育施設公開講座・全5回)

詳細はイベントチラシ、当館ウェブサイトでお知らせします。

### ■夏の美術館がもっと楽しくなる!「わくわくゆったりグッズ」プレゼント

夏休み期間中の2017年7月15日(土)-9月3日(日)にご来館の18歳以下の方に、クーポン付ノベルティ・グッズを差し上げます。(なくなり次第終了。休館日を除きます)

## プレス向け内覧会のお知らせ

2017年5月26日(金) 12時-14時、プレス向け内覧会を行います。  
参加をご希望の方は、鎌倉別館広報担当までメールでお申込みください。  
申し込み先: info.kinbi.474@pref.kanagawa.jp (担当: 立花、三本松)

### 図版キャプション

※本展をご紹介いただくための、画像データをご提供します。  
鎌倉別館広報担当にお問い合わせください。

1. 竣工時の鎌倉別館 1984年頃(撮影:大谷一郎)
2. 前川國男の事務所を訪れたル・コルビュジェと前川、所員たち。  
右端に大高正人。1955年11月4日、東京。  
(画像提供:前川建築設計事務所)
3. 斎藤清《公園、パリ》1978年 墨、顔料、紙
4. アンリ・マティス《イカロス》『ジャズ』8 1947年  
ステンシル、紙(山口蓬春文庫)
5. 《歡喜天曼荼羅》南北朝時代 絹本着色(木下翔返コレクション)
6. 袖木沙弥郎《広巾布》1982年 型染、綿(撮影:上野則宏)
7. 向井良吉《アフリカの木》1955年 木
8. 佐野繁次郎《画家の肖像(死んだ画家)》1959/64年(加筆)  
油彩、カンヴァス

作品はすべて当館蔵

## 鎌倉別館の休館について

鎌倉別館は、2016年3月末の鎌倉館閉館後の美術館事業を継続・発展させるために必要な施設改修を行うとともに、開館33年を迎え老朽化が進んだ設備を更新し、快適な鑑賞環境を整えるため、2017年9月4日より2019年10月(予定)まで改修工事のため休館します。休館中は葉山館での展覧会を中心に鎌倉、葉山の双方で館外での様々な活動を予定しています。鎌倉別館の休館にご理解を賜りますようお願い申し上げます。